

2019年度 「学生プロデュース」実施結果報告書

1 プロジェクト名

音で伝える地域と大学

2 実施日程

神霜祭展示期間 令和1年11月2日～4日

たまごギャラリー展示期間 令和2年2月17日～3月2日

3 実施内容

〈目的・概要〉

SNS が発達した現代では、共通点が少ない人と関わる機会が少なくなっており、言語化された情報のみのやりとりが増えつつある。企画にあたっての話し合いの中では様々な学問を専攻する学生が共存する大学であるにも関わらず、学生間の関わり合いが希薄であることが問題として挙げられた。さらに大学の所在している柏原市についても、何も知らないという話も出たため、学生間のみならず、地域の施設にも協力を仰ぎ、地域も巻き込んだ交流を目指した。

そのためこの活動では、本当の意味での交流、つまり地域・大学・学生を、言語化できないものや視覚的に表現できない感覚的なものを通して繋ぐことを目的とした。実施期間においても、学外の人にも参加してもらえ神霜祭期間中に設定した。

〈実施内容〉

学生、周辺地域から提供してもらった音を QR コードに変換し、来場者に自由に読み取って聞いてもらえる場所を作る。音を充分に感じ取ってもらうため、展示形式はくつろぐことのできる空間づくりを目指し、そこでの音声は大きく三つのカテゴリーに分けて展示をした。

(1) 「地域特有の音」

メンバーが柏原市を中心に大学周辺の施設(手ぬぐい CILL 様・パティスリーアンジュブラン様・横政農園様)に直接取材して音を収録した。

(2) 「大阪教育大学特有の音」

サークルや部活、その他大学の各施設にメンバーが直接取材して音を収録した。また、一部の部活においては実際の活動動画・音声を募集し、編集・展示をした。

(3) 「学生の生活の中の音」

SNS を通して本学の学生から公募して入手した音声を編集・展示をした。

・展示方法

蚊帳を使用した展示ブース3つを制作し、学祭期間中に A-107 にて設置をした。蚊帳内ではシルクスクリーンで印刷をした音声 QR コードが壁面(3面)にあり、その QR コードを端末で読み取って聞くことのできる展示形式にした。また、蚊帳内では教室全体を暗くし、さらに照明にもこだわり、安心してくつろげる空間を目指した。

・配布物

(1) 展示する音声の一覧とともに部活・地域の紹介冊子を当日来ていただいた方に配布した。

(2) 展示空間での音声体験をよりくつろいでいただくために無償でドリンクを提供した。

4 経費の使途				
事 項	数 量	単 価	合計金額	備 考
ポータブルヘッドホンホワイト	8	1,323	10584	
ラグマット	3	5,491	16,473	
厚紙 8 オンス用クロップ LID	3	1,020	3,060	
厚紙コップ 8 オンス 280ml ホワイト	6	540	3,240	
断熱スリーブ S	6	270	1,620	
ジアリ感光乳剤 EX	1	3,600	3,600	
折り畳み式蚊帳	2	4,999	9998	
折り畳み式蚊帳	1	4499	4499	
かけ布団カバー	21	2,027	42,567	
ジアソ再生液 E 250ml	1	1,440	1,440	
スチレンボード	3	2,736	8208	
貼りパネル	5	1,502	7510	
麻ひも	1	231	231	
木製クリップ	1	959	959	
録音用マイク	2	1320	2640	
冊子	250	186	46,730	
合 計			163359	

自費の使途				
事 項	数 量	単 価	合計金額	備 考
DM	300	32	9653	
スタンプ	1	4127	4127	
インク代	1	110	110	
棒	3	900	2700	
マスキングテープ	3	110	330	
ペーパータオル	1	110	110	
ゴミ袋	1	110	110	
延長コード	3	110	330	
養生テープ	2	110	220	
電池 (単4)	1	110	110	
ボールペン	1	110	110	
耐震マット	1	110	110	
飲料	14	198	2772	
ライト	6	110	660	
バスケット	3	110	330	
合 計			21782	
総 合 計			185141	

5 プロジェクトの成果

音声を聴く展示であるので、なるべく教室外の音を遮断できるよう共通講義棟内でも静かな教室を選んだ。さらに外の光が差し込まないように教室のドアや窓を締め切る予定にしておき、外から中の様子が全く見えず立ち寄りづらくなることが予想できた。期間前から取れる対策として、プロジェクトの認知度を上げ、なおかつ内容に興味を持ってもらえるような工夫が必要だった。

プロジェクトの目的である「学生・地域間の交流」と、展示を行う空間の雰囲気可視化した、インパクトのあるデザインのポスターと DM を制作し、それらを 1 週間ほど前から多くの場所に掲示した。デザインに目を留めプロジェクトに興味を示した学生も多かった。認知度を上げる目的で、SNS で準備の様子や企画概要の発信も行った。学生プロデュース企画で宣伝のために SNS を効果的に使っていた先輩にアドバイスもいただき、自分たちの知り合い以外のところにも認知を広げることが出来た。

これらの事前準備の成果もあり、人通りがあまり多くない場所で、どれだけの人来ていただけるか不安を抱えたままの開催となったが、神霜祭 3 日間を通して累計 180 人ほどの方々に来場していただけた。立ち寄りづらさを軽減するために期間中に行ったこととしては、来場者に「ひとことカード」を渡し感想を記入してもらい、教室前の壁面に掲示したことが挙げられる。壁に小さな紙がたくさん貼られていることで多くの人に足を留めていただけた実感がある。また、自分たちでは予想していなかったことが宣伝効果を生み、来場者の数を伸ばす結果に繋がったこともあった。

鑑賞者にリラックスしてもらえるよう飲み物の提供を行ったことが、ガヤガヤとした雰囲気のキャンパス内を歩き回り疲れた人の足を留める理由になったり、暗くした教室の中であたたかい光に照らされるテントが並ぶ光景は写真映えも良く、SNS に写真を投稿してくださる来場者もあり、それらを見て来てくれた方も多かった。実際に現場に足を運ばないことにはわかりようのない展示形式をとったことで、興味を持った人には高確率で来場していただけた。

来場者の方々にいただいた感想をいくつか抜粋する。

「音に焦点を当てた展示は新鮮で興味深かった」「とてもリラックスした雰囲気で落ち着く。ずっといたい」「冊子に QR コードが掲載されているので、展示が終わってからも聴けることが嬉しい」「柏原市にこんな場所があることは知らなかった」

「美術を専攻している人と交流することがなかったので面白い」「学祭のガヤガヤした空気に疲れてしまうので、こういう場所があるとリラックスできて嬉しい」

「〇〇の音に注目したことがなかったので面白かった」

全体を通して、リラックスできる空間・雰囲気作り、多くの人に来ていただくこと、「音」に興味を持ってもらうことにおいては成功したと感じた。地域の方々、他学科の学生とも交流することが叶い、充実した 3 日間となった。日常生活では触れることの少ない印刷技術を使った DM を配布したり、QR コードを展示するためにシルクスクリーンの手法を用いたこと、自分たちのイラストやデザインで冊子を制作したことで、自分たちの学んでいる美術表現についても知ってもらい、貴重な機会にもなった。

しかし、音を通しての交流が満足に達成できたかといえば、少し足りない部分があったようにも感じている。「音」という形のないものを展示するにあたり、今回は鑑賞者の想像の広がりや重要性を重視し、写真などの視覚情報は展示では見せないようにしたが、場所や団体に関心を持ってもらうためにはもう少し露出した方が良かったところもあったかもしれないと考える。

感想についても、より多くの人に書いていただくためにひとことだけいただいたが、アンケートという形式をとっていても良かったという思いが生まれた。

これらの反省を生かし、2 月から、神霜祭の成果発表も兼ねて、展示の機会をもう一度設けることとした。展示形式にも変化をつけ、「音」を通しての交流を図るにあたり、どのようなことができるか改めて向き合う機会としたい。

